

# 令和2年度 学校評価公表シート

学校法人あい学園  
あい幼稚園

## I. 教育方針

生活習慣を身につける  
社会のルールを身につける

自然とふれ合い優しい心を育む  
命の大切さを学ぶ

## II. 教育目標（目指す子ども像）

### ① 気持ちの良いあいさつや返事ができる子ども

朝の元気な「おはようございます」だけでなく、日常生活の様々な状況に応じたあいさつや返事は『正しい生活習慣が身につけてこそ』だと私たちは考えています。あいさつや返事をもとより、基本的な生活習慣の大切さに気づき、自分からすすんでできる子どもを目指します。

### ② 自然や命を大切にできる子ども

田園に囲まれた環境、海が近い町という立地を活かし、四季折々の自然体験を通して『土・水・緑・動植物』など様々な『命』とふれ合いながら、それらを大切にできる優しい心の子どもを目指します。

### ③ ルールを守り、自分で考えて行動できる子ども

社会にはあらゆるルールやマナーが存在し、日常生活を送る上でそれらを見守ることは決してできません。ルールやマナーは思いやりでもあると私たちは考えます。また、自分や他人の命を守るために必要なルールもあります。先生や友だちと一緒に園生活を送る中で、身近な「きまり」や「約束事」をはじめとし、様々なルールやマナーがあることを学びながら、自分で良いことと悪いことを考えて行動できる子どもを目指します。

### ④ 心豊かでのびのびと活動する子ども

子どもたち一人ひとりが、命ある大切な存在です。また、誰一人として同じ子どもはいません。あそびの中で、こうした一人ひとりの興味・関心・意欲を引き出しながら、自己肯定感を高めていくとともに、自分自身や仲間の個性を尊重できる子どもを目指します。

## III. 自己評価項目と取り組み状況

A：出来ている                      C：一部出来ていない  
B：おおむね出来ている        D：出来ていない

自己評価項目		評価	取り組み状況	今後の課題
1	教育方針及び教育目標をわかりやすく伝えているか。	B	幼児には機会を捉えて教育目標（目指す子ども像）について伝えている。また、年長児においては日々の集まりで唱和をしたり、一日の出来事と教育目標のつながりを考えながら振り返りを行ったりしてきたことにより、幼児自身が目指す姿を意識しながら就学に向けて過ごす姿も見られている。一方、保護者には配布物や掲示物、またホームページなどで発信してきたが、まだ十分に周知されているとは言い難い。	保護者への発信の機会を増やしたり、具体的な幼児の姿と紐づけて伝える等の工夫をしたりしていきたい。

2	幼稚園教育要領および園の教育方針に基づき、地域性等を考慮しながら特色を生かした活動を行っているか。	B	泥田あそびや田植え、稲刈り後の田んぼあそび、畑での活動や四季ごとの海への園外保育など、立地を生かしたあそびや活動を行っている。しかし、年齢ごとで見ると、年少児以下のこうしたあそびや活動の機会は少ない。	今年度は感染症対策により中止された活動も多かったが、今後は教師の配置や時間配分などを工夫して、年少児以下の幼児もその年齢に応じた多様な体験ができるようにしていきたい。
3	季節や幼児の活動などに合わせて、安心して清潔感のある環境を準備しているか。	B	遊具や園内は日常の保育準備や片付けの際に安全点検を行ってきた。また、清掃チェック表を活用したり教師間で声を掛け合ったりしながら清掃や整理整頓をするよう心掛けてきたが、細やかな清掃が行き届いていない場所があったり、行事前後の繁忙期になると乱雑になったりすることもあった。	清掃や整理整頓は時間を有効活用しながら日常的に丁寧に行うようにしていく必要がある。園内が幼児や園を利用する全ての人にとって心地よく整えられているか、常に思いやりの心を持って観察し、また気付いた時には後回しにせずその都度整えるよう心がけていきたい。
4	教師は指導方法や幼児理解について、充実した研究や研修を行っているか。	B	自肅期間などもあり当初の予定から減少したものの、今年度は年間で計4回の園内研修を行った。研修の計画から進行まで全てを教師自らが行ったことにより、今、自分たちに必要な知識や技術が何であるかを知り、積極的に学ぶことが出来た。また、こうした機会を通して教師間で共通理解を図ることも出来た。コロナ禍により園外研修の機会は昨年までと比べて減少したが、一方でオンライン研修やオンライン授業による資格取得の機会が増え、それらに積極的に参加したり、より良い幼児教育につながる新たな資格を取得したりすることが出来た。	園外研修で各自が学んだことを教師間で共有していくとともに、日常の保育に活かしていくよう定期的な進捗状況の確認や評価・反省の機会を作っていく。また、こうしたことを配布物やSNSなどを通して保護者にも発信していきたい。
5	育ちを促す環境構成や援助の工夫をしているか。	B	時期によって環境構成の内容に変化をつけたり、教師の声掛けや援助をその年齢や状況に応じて工夫したりすることにより、子どもたちが主体的に遊んだり活動したりする姿がよく見られた。また、学期ごとに、園児一人ひとりの成長や課題について全教師で話し合うことにより、共通理解のもと幼児とかわかることができた。	今後も、教師間で気軽にその日の保育について語り合える場を作ったり、園児一人ひとりの現在までの姿や必要な援助などについて情報共有したりしていくことにより、園全体で子どもたちの成長をサポートしていくよう努めていきたい。
6	教師は日々の教育において評価・反省を行い、次の指導に生かそうとしているか。	B	降園後の時間を有効に使いながら教師間で日々の評価・反省、また翌日以降の活動について、十分に話し合う時間をもつことができた。また、教師間で声を掛け合いながら反省を生かすよう努めてきた。	今後は認定こども園への移行も踏まえ、どの教師がどのクラスに入っても幼児に対して同じかわりができるよう、共有ノートを作るなど、より共通意識をもって日々の教育に携わるよう努めていきたい。
7	繰り返し援助・指導することで、幼児には基本的な生活習慣が身についているか。	B	幼児一人ひとりの個人差に配慮し、また教師間でそれぞれの成長を多角的に捉えながら、援助や指導を行うことが出来た。基本的な生活習慣を身につけていくためには、家庭との連携も不可欠であるが、園として十分なアプローチが出来ているとは言い難い。	園での取り組みや、一人ひとりの成長の様子を各家庭に発信する機会を増やし、十分な連携を図れるよう努めていきたい。
8	教師は季節に応じた生活の仕方について、幼児が気付けるような援助に努めているか。	B	季節ごとに月刊絵本や教材を利用して全体指導を行ったり、機会を捉えて個別に声をかけたりしてかわってきた。年齢によって、自分で出来ることに差はあるものの、就学までの3年間で身に付くよう援助に努めてきた。	前項と同様、家庭との連携も必要である。園で今どのような指導を行っているか、また学年ごとにどのような援助が必要かを家庭に発信しながら、園と家庭が一体となってかわかっていけるようにしていきたい。
9	気持ちのよい挨拶や返事ができるように、教師が率先して実践しているか。	B	幼児のモデルとなるよう、教師自ら気持ちのよい挨拶や返事を心がけている。4月には園内研修の中で正しい挨拶を実践するなど、教師間で意識を高めていくよう努めている。しかし一方で、園児、保護者、来客、園外で出会った方に対して、また職員間においても、挨拶をしている『つもり』になっていたり、疎かになってしまったりすることもある。	常に広い視野を持つこと、「挨拶は自分から」という意識を持つこと、また名前を呼びかけて挨拶をするなど気付いてもらえるような呼びかけをしていくことにも努めていきたい。

10	幼児は園生活を楽しみにし、のびのびと活動しているか。	B	子どもたちは日々の園生活の中で幼稚園の雰囲気や周囲の人々に慣れ、安心して過ごすようになるとともに身近な教師とも信頼関係を築いてきている。また、様々な活動やあそび、教師や友だちとのふれあいを通して、楽しさや喜びを感じている。時には友だちとぶつかり合ったり葛藤したりしながら、あそびを中心にのびのびと活動する中で、心身共に成長していると感じている。 園生活の様子は、フェイスブックや掲示物、配布物などによって保護者や地域へ発信しており、多くの方から「園での子どもたちの楽しそうな様子が伝わってくる」という嬉しいお言葉を頂いている。	今後も、一人ひとりの個性を尊重しながら、子どもたちが多様な体験を通して学び、成長していけるよう、教師自身も園における幼児教育・保育を楽しんでいきたい。また、今後もその様子を継続して保護者にも発信していきたい。
11	保護者が安心して相談できる信頼関係づくりに努め、適宜、情報提供を行っているか。	B	今年は、感染症対策のため送迎時の会話を控えることが多かったため、年度当初はなかなか保護者との信頼関係を築きづらい状況でもあった。また、フェイスブックや配布物などで園生活の様子は伝えてきたものの、保護者にとって必要な情報を十分に発信できたとは言い難い。	懇談で個別の成長シートを作成するなど、より一人ひとりの成長や課題がわかるような工夫をしていきたい。また、日頃から、保護者が声をかけやすい雰囲気作りに努めると共に、子どもを中心に置きつつも保護者の思いにも十分寄り添っていきよう努めていきたい。 保護者が今どのような情報を求めているのか、声をしっかりと拾いながら情報提供を行っていききたい。
12	保育園、小学校と相互の専門性を生かし、幼児の育ちを保証するための交流を行っているか。	C	今年度は感染症対策のため毎年行っている主要な交流活動のほとんどが中止となってしまった。しかし、例年それほど頻繁に交流を行っているとは言い難く、改善の必要性を感じている。	小学校、保育園、それぞれに行事やカリキュラムなどで日程調整が難しいという問題点はあるが、こちらから働きかけていかなければ改善は見込めない。今後も継続して積極的に交流の機会をもてるようアプローチしていく。
13	地域での体験活動や行事に参加し、様々な人とかわりながら教育活動を進めているか。	C	今年度は感染症対策のため各施設への訪問の機会を減らしたり地域行事への参加は控えたりしたため、十分な活動はできなかった。 例年であれば年間を通して季節ごとの地域行事に参加させて頂いている。また、図書館など地域の施設を継続して利用させて頂くことで、園児は自分が住む地域の施設を身近に感じ、その利用方法がわかるようになってきている。	今後の活動については、感染予防に十分配慮した上で検討していく必要がある。しかし、可能な限り積極的に地域行事に参加したり、地域の施設を訪問したりしながら、様々な人々との交流を図っていききたいと考えている。
14	幼稚園教育を家庭や地域に生かすために、子育て支援の活動(ジュニアクラブの実施や園だよりでの情報提供など)を行い、専門性を発揮しているか。	B	現在、月2～5回のペースで未就園児の親子向けの活動を実施し、親子で運動あそびや製作あそびなどを楽しんだり、園行事に参加したりできる機会を設けている。また、月1回ジュニア通信を発行し在園児への配布や、公民館での掲示等により、より多くの人にジュニアクラブについて知ってもらおうよう努めている。	現在の活動を継続していくとともに、園庭開放や相談会の実施など更に保護者のニーズに応えられるような取り組みも増やしていきたい。

#### IV. 今後取り組むべき課題

前年度の評価・反省をもとに今年度の目標を話し合う機会を設け、各教員が学校評価の主旨や内容をよく理解した上で主体的に取り組んできたことにより、各項目について概ね達成できたと評価している。

今後の大きな課題として、保護者や地域に対し情報発信の頻度や方法を改善していく必要があると考えられる。引き続き達成を目指して取り組んでいきたい。

## V. 学校関係者の評価

各年代の挨拶、作法、行動が目に見える形でその良さが感じとることができた。定時に行われている園児の体操を見ても、心地よさすら感じた。園の教育方針、教育目標のもと、園長はじめ各教諭の連携及び統制の取れた園児への教育的配慮がなされている。その背景には配置基準を遥かに超えた人員体制が確保されていることにあると思われる。保育士確保に苦悩する園が多いなか素晴らしいことである。このことから働く環境が良い、園児の教育にやりがいを感じている教諭が多いのではないかと推察する。

また、各園児一人一人の保護者への配慮も欠かしておらず、園児の成長や園の活動を伝える方法を確立し、さらにその点に関してブラッシュアップすることにより、保護者の満足度を高める努力をしていると感じた。個人情報取り扱いに留意した SNS の発信も効果的である。保護者から保護者への伝聞が園の未来に関わることから今後も続けていただきたいと思う。

最後に、来年度は認定子ども園に移行するが、教育の質、保育の質の観点からも現体制でも十分に対応できるのではないかと、より一層の教育及び保育のオリジナル溢れた園の確率に期待するものである。

## VI. その他（保護者からの声）

- 外あそびや自然と触れ合う機会を多く作ってくれ、フェイスブックや子どもの話からも楽しさが伝わってくる。「散歩で〇〇を見た」とか、花の名前等、あそびの中に上手に学びを取り入れている。また、フェイスブックを頻繁に更新しているため、園での様子がわかり、子どもと会話する時に役立っている。
- 迎えに行った際、玄関付近に荷物をひとまとめにして、そこに先生がいてくれるため、スムーズで安心して子どもを連れて帰ることができる。
- 連絡ノートに、些細なことなど書いても良いのか悩む。先生方も忙しいだろうな、と思うとつい遠慮してしまう。
- 毎日先生方が率先して笑顔で、かつ大きな声であいさつをしてくれるため、とても気持ちが良い。また園に足を運んだ際、担任の先生だけでなく他クラスの先生も子どものエピソードなど交えて声をかけてくれるので嬉しい。挨拶だけでなく『〇〇さん、こんにちは』と名前を呼んで声をかけてくれる先生もいるが、その方が声をかけやすく相談もしやすい。
- 懇談時には、子どもの成長に合わせて「そろそろこうした方が良い」というアドバイスくれたり子どもに伝えたりしてくれるが、そういったことがあればその都度、タイムリーに伝えてくれるとより助かる。
- 子どもに人気の給食レシピのレシピや写真などを時々教えて欲しい。
- 今年度はコロナ禍で例年通りの行事が出来ず残念だったが、中でも子どもたちが違う形で楽しめるように工夫してくれたことはありがたかった。また、園行事など出来ることは協力したいと思っている保護者は多いと思うので、お手伝いできることがあれば呼びかけてもらえると嬉しい。
- 誕生日会に保護者が参加し、子どもと一緒に給食を食べるのを楽しみにしていたので、それがなくなったことは少し残念。